

日本臨床検査医学会 2015 年度 第 3 回理事会 議事録

日 時：2015 年 10 月 3 日（土）12：00～15：30

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席者：村田 満理事長，前川真人副理事長，山田俊幸総務理事，諏訪部章会計理事，米山彰子庶務理事，北島 勲，東條尚子，野島孝之，清水 力，本田孝行，清島 満，一山 智，杉浦哲朗，康 東天 各理事
尾崎由基男 監事（以上 15 名）

欠席者：安東由喜雄，佐守友博，小柴賢洋，藤田清貴，横田浩充，賀来満夫 理事，高木 康 監事，（7 名）

会に先立ち、村田満理事長から挨拶があり、野島孝之理事，清島満理事を 議事録署名人に定めて理事会の議事を進めた。

I 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の 2015～2016 年度の支部例会・総会予定、支部地方会予定等について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 編集委員会（東條尚子 委員）

新区分「短報」(Short Communication) への投稿があり 8 月号に掲載したこと、現在、HDL コレステロール、人間ドック、情報処理、ISO 認定、感染症のトピックス企画が進行していること、優秀論文賞候補者 3 名を選定し学会賞委員会に推薦したこと、編集委員交代について今後検討予定であることが報告された。

会員の学会誌を閲覧可能とすることについて、メテオの無料ダウンロードサービス（学会専用の ID/PASS（1 年毎に更新））を採用することが提案され、会員の利便性にもつながり問題ないのではないかととなった。また、著作権権利許諾本サービスについては、特に必要なしとなった。

2) 教育委員会（北島 勲 担当理事）

第 62 回学術集会における教育委員会企画、11 月 21 日の第 4 回臨床検査を学ぶ若手医師の集い、11 月 22 日（日）開催の RCPC1、RCPC2、臨床検査医学 catch up セミナー 今・そしてこれからの臨床検査医学・各論を企画したことが報告された。

3) 臨床検査点数委員会（米山彰子 担当理事，東條尚子 委員長）

平成 27 年 7 月 28 日に内保連経由で厚労省に提出した平成 28 年度診療報酬改定提案書に対する厚労省のヒアリングがあり、東條尚子委員長と米山彰子担当理事が出席し説明したこと、採血コスト再調査を行い 45 施設から協力が得られ、前回調査より高い結果となり、日本臨床検査専門医会から採血コストの増点要望の根拠となる資料としたことが報告された。

4) 学会賞委員会（村田 満 理事長）

2015 年度の学会賞について、学会賞委員により事前審査を行ったうえ、7 月 23 日に委員会を開催し、学術賞：平山哲氏（順天堂大）、検査・技術賞：中出祐介氏（金沢大学附属病院）、若手研究者奨励賞：増田亜希子氏（東京大学医学部附属病院）、優秀論文賞：井本しおん氏（神戸常盤大学）、千田靖子氏（金沢大学附属病院）、鍋谷洋介氏（岐阜大学医学部附属病院）を当委員会で承認し、理事長に報告をしたことが報告された。

なお、学会賞委員会からの報告後に、学術集会の抄録原稿の期日もあるため、持ち回り理事会を行い承認した。そして、功労賞・河合忠賞候補者を理事から推薦を募った結果、上田國寛先生（元京都大学）が推薦され、持ち回り理事会において受賞を決定した。

5) 標準化委員会報告（前川真人 担当理事）

TSH 測定値のハーモナイゼーションの試みとして、日本医師会の調査で最も使用されている 4 つの測定試薬の平均値（APTM；all procedure trimmed mean）に、各試薬での測定値を変換する式を提供する（11 月の臨床検査医学会と甲状腺学会で発表予定）ことが報告された。

6) 精度管理委員会報告（前川真人 委員長）

2015 年度 CAP サーベイ は、123 施設が参加（対前年+ 4 施設；4 施設減かつ 8 施設増）、遺伝子検査に関するサ

一ベイス参加は項目によっては年々増加傾向にあること、今後も現場とのマッチングを考慮し導入項目の見直しを進める予定であること、2010年度より継続的に「国際臨床検査成績評価プログラム」に新規項目を追加しており、今年も来年度以降に向けて20余りの追加導入項目の内、1) HbA1c、2) BNP、3) シクロスポリンの3点が現実的な項目となっていること、参加施設に対するCAPサーベイアンケート（顧客満足度調査）を2012年度、2014年度に行い第61回学術集会（福岡）のシンポジウムでCAPサーベイ事務局から結果報告し、2016年6月にも調査予定であることが報告された。

7) 検査項目コード委員会（康 東天 委員長）

JLAC10の改訂版の臨床検査項目標準マスター（JLAC11）原案が終了し、JLAC11の概要の説明があり、パブリックコメントを募集して完成させる予定であることが報告された。

8) 広報委員会報告（村田 満 理事長）

HP改修のため、本年度予算100万円であること、新HPの体裁は暫定的に臨床検査振興協議会のHPに準じたものにするかと仮定し、現在のHPの内容を新たな体裁に移すという前提で3社より提案、見積を取り、委員会としては見積、内容として大成が妥当ではないかと考えていることが報告され、理事会での検討依頼があった。

9) 国際委員会報告（北島勲 担当理事）

2015年度国際学会奨励賞について、本年度は6名の応募があり委員会での審査により、奥橋佑基氏（東京工科大学）、黒崎祥史氏（北里大学）、中出祐介氏（金沢大学附属病院）の3名の受賞候補者を決定したことが報告された。

10) チーム医療委員会報告（米山彰子 担当理事、諏訪部章 委員長）

11月21日（土）に岐阜都ホテルで、第62回学術集会 シンポジウム11として「医療従事者間のコラボレーション（パートII）～チーム医療に対する取り組みと検査部に期待すること～」を、開催予定であること、臨床検査技師による微生物学的検査の検体採取が実施され、その実態を調査する「今後のチーム医療の在り方等に関する研究（研究代表者 北村聖）」に諏訪部章委員長が引き続き参加することが報告された。

11) ガイドライン作成委員会（東條尚子 担当理事）

臨床検査のガイドライン2015作成に向け、章立て、著者表示、入稿状況確認をしたこと、タイムスケジュールは、委員会査読終了：10月7日、著者校正終了：10月17日、最終校正終了：10月31日、学術集会までに完成する予定である。COI開示については出版物の末尾に一覧で掲載するが、内容について利益相反委員会に確認を取ることとなった。刊行後の配付・公開については、会員および主要な医療機関・団体へ送付すること、WEB公開は、旧2012版は諸事情により無料公開としていたが、今回は無料公開せずWEB版販売を行うこと、販売価格は2012版よりページ数が増えることから、旧版価格（3千円）からページ増加分に相応する程度値上げを行うことが報告された。

3. 第62回学術集会報告（岐阜2015/11/19(木)～11/22(日)）（清島 満 会長）

2015年11月19日(木)～11月22日(日)に長良川国際会議場、都ホテルにおいて、「臨床検査の発展～豊かな医療への懸け橋」というテーマで開催予定であり、学術集会の予算案、主なプログラム、日程表が報告され、参加、協力依頼がなされた。

4. 第63回学術集会報告（神戸2016/9/1(木)～9/4(日)）（米山彰子 理事）

2016年9月1日(木)～9月4日(日)に神戸国際会議場において、IFBLS2016（第32回世界医学検査学会）、第65回日本医学検査学会、第11回日本臨床検査学教育学会と同時開催で、メインテーマは「Challenge」（医学検査学会と共通）、サブテーマは「臨床検査の連携・協働（仮）」、特別講演は、井村裕夫元京都大学総長にお願いし講演「先制医療と臨床検査（仮題）」、今後、各委員会、関連他学会と各種シンポジウム等について相談する予定であることが報告された。

5. 2015年度臨床検査専門医認定試験結果・会計報告について（東京2015/08/1-8/2）（村田 満 理事長）

2015年8月1、2日（土日）に東京大学医学部（矢富 裕 試験実行委員長）で実施された第32回臨床検査専門医認定試験結果について、初回受験者15名、再試験受験者6名、合計21名について、新規受験者12名、再試験者4名、合計16名合格、不合格者5名のうち科目限定の要受験者は4名、全科目要受験者は1名であったことが報告された。

なお、今回、試験費用（200万円）から試験関連の書類を保管管理するため、専門医試験専用のPCを購入して引き継ぐこととし残額48,670円であったことが報告された。

6. 役員（理事・監事）選挙について（米山彰子 理事）

2016・2017年度理事6名、2016・2017・2018・2019年度監事選挙日程と、理事長選出の方法が改定されて初めてのため、次回定時社員総会までの役員交代についてのフローが示され報告された。

7. 新専門医制度関連事項（山田俊幸 臨床検査領域代表）

1) モデル研修プログラムについて

日本専門医機構に提出し9月27日に承認された臨床検査研修プログラムが資料として提示された。臨床検査領域の研修プログラム作成の参考として作成いただくことが報告された。

2) 研修プログラム認定作業、旧制度への対応について

審査の流れ、審査する資料について説明があった。今後、プログラム作成や提出資料についての説明、周知し、臨床検査領域の研修プログラムの申請受付は、11月頃から開始予定である。

旧制度の研修施設は、新制度の基幹施設認定を受けた施設は現制度の施設認定を受けたものとみなす。ただし、新制度の認定を受けず、実際に研修している専攻医がいる場合は、現制度に認定を受ける必要がある。そして、旧制度での学会専門医受験は、2019年度までに受験することを推奨すること、学会専門医更新は2020年1月付更新までは選択可能とすることが申し合わされた。

8. 本学会からの関連団体委員推薦について（更新）（村田 満 理事長）

7月6日以降に関連団体に下記の通りの派遣委員を推薦したことが報告された。

1) 厚生労働省

①2015/8/29 推薦 H27年度次世代医療機器・再生医療等製品評価指標作成事業【微量診断装置審査WG委員：菊池 春人

②2015/9/3 推薦 ゲノム医療実現推進協議会 ゲノム医療等実現推進タスクフォース委員：宮地勇人

2) 日本医学会 任期：2015/6/25～2017/6

①評議員：村田 満、②連絡委員：前川真人、③医学用語委員：米山彰子、④医学用語代委員：東條尚子

3) 認定輸血検査技師制度

①2015/7/21 推薦 審議会委員・カリキュラム委員会委員：金子 誠

9. 各種契約更新について（村田 満 理事長）

2016年度の各種契約について以下のとおり引き続き更新予定であることが報告された。

(株)宇宙堂八木書店：臨床病理誌制作委託、発送委託、事務委託（一部）

古川俊治 弁護士：顧問（弁護士）

野沢孝志 税理士：顧問（会計）

克誠堂出版(株)：外販委託

福田商店広告部、(株)日本廣業社、(有)学術広告社：広告募集委託

10. その他

特になし。

II 審議事項

1. 2015年度中間実績報告・2016年度予算案について（諏訪部章 会計理事）

2015年1月1日～6月30日までの2015年度中間実績、2016年度予算案が提示され、昨年との比較により増減がある項目について説明があった。2016年度予算案は、ほぼ例年通りの予算立てとしていることが報告され、承認された。

2. 2015年度事業中間報告について（米山彰子 総務理事）

2015年度中間の事業報告がなされ、会員数の記載について比較し易くするため、昨年の中間報告の人数も加えることとなり、承認された。

3. 2016年度事業計画（案）について（米山彰子 総務理事）

2016年度事業計画（案）の説明がなされ、承認された。

4. 第61回学術集会収支差額について（福岡 2014/11/22(土)～11/25(火)）（村田満 理事長）

7月4日、第2回理事会（理事総会）の審議事項。第61回学術集会収支差額について、常任理事、康東天先生、監事、議事録署名人で議事録を確定した内容について確認依頼がされ、特に問題なしとなった。それにより、第61回学術集会企画の2団体の講演会を第62回学術集会で開催することとなり、第61回学術集会収支報告を確定することとなった。

5. 次期臨床検査専門医・管理医試験実行委員長について（村田満 理事長）

2016・2017年度の臨床検査専門医認定試験 実行委員長は渡邊卓先生（杏林大学）に、臨床検査管理医講習・認定試験 実行委員長は東條尚子先生（三楽病院）に依頼することが提案され、承認された。

6. 臨床検査医学会を一階部分とする subspecialty 学会に関する検討委員会(WG)の設置について（村田満 理事長、山田俊幸 理事）

新専門医制度での臨床検査専門医専攻者獲得のため、臨床検査専門医の Subspecialty 領域を検討するため臨床検査専門医制度検討委員会のもと臨床検査医学会を一階部分とする subspecialty 学会に関する検討委員会として設置すること、委員長は村上正巳先生、委員は、まず、教育委員長の山田俊幸先生、臨床検査専門医制度検討委員長の木村聡先生として、臨床検査専門医へのアンケート調査によって実態を把握し、結果に基づいて委員や今後の進め方について検討していく予定であることが報告され、承認された。

7. 2016年度からの名誉会員・功労会員・社員（評議員）の推薦について（村田満 理事長）

名誉会員、功労会員、評議員の推薦について、それぞれの資格要件について確認され、以下の通り、名誉会員、功労会員、評議員として承認された。

- 1) 名誉会員として登勉先生、佐守友博先生（現理事のため 20160327 より）の2名。
- 2) 功労会員として北海道支部から森山隆則先生1名、東北支部から中居賢司1名、関東・甲信越支部から野村文夫先生、橋本佳明先生、羽田雅夫先生の3名、近畿支部から大倉ひろ枝先生、依藤史郎先生2名、中国・四国支部から市原清志先生、井上裕二先生、杉浦哲朗先生（現理事のため 20160327 より）3名、合計7名。
- 3) 評議員として、北海道支部から藤井聡先生1名、関東・甲信越支部から古田島伸雄先生、佐藤麻子先生、窓岩清治先生、涌井昌俊先生の4名、東海・北陸支部から松下正先生1名、近畿支部から井上直哉先生、岡田仁克先生、三枝淳先生、中村文彦先生の4名、中国・四国支部から竹内啓晃先生、柴倉美砂子先生の2名、九州支部から長谷川寛雄先生、堀田多恵子先生の2名、合計14名。

8. 評議員（社員）再任予定者（2016/01/01）について（村田満 理事長）

2016年1月1日付の評議員再任予定者58名が提示され、再任の手続きは、12月下旬の評議員審査委員会での審査、審議会後となるが、評議員の再任には社員総会の承認が必要のため、今回の理事会、11月19日の臨時社員総会の承認を得る。ただし、再任の単位を満たさない場合は退任となる。現時点、会費未納がある評議員には再任申請依頼時に請求をすることとなり、2016年1月1日付の評議員再任予定者58名について承認された。

9. 第65回（平成30年度；2018年）学術集会長の推薦について（前川真人 副理事長）

第65回（2018年）学術集会長について、東北支部より諏訪部章先生、関東・甲信越支部から村田満先生、中国・四国支部から通山薫先生が推薦された。ただ、通山薫先生は、当年、臨床検査自動化学会の会長のため次年度以降に立候補することとし今回は辞退すると杉浦哲朗支部長より説明があった。協議のうえ、現理事長で年長ということで村田満先生が第65回（2018年度）学術集会長候補者として承認された。

10. 定款・細則の一部改定案（評議員退任期限後の理事について）（米山彰子 担当理事）

7月4日の理事会に提出された評議員退任後約3ヶ月の理事期間についての定款の一部改定案「評議員が任期中に満65歳に達する場合は、その年の事業年度の末日までとする。ただし、理事である場合は、満65歳の誕生日の次の社員総会までとする。」に対し問題点が指摘されたため、会則改定委員会で再検討された改定案「評議員が任期中に満65歳に達する場合は、その年の事業年度の末日までとする。ただし、事業年度の末日に満65歳の理事は、次の定時社員総会までを評議員の任期とする。」が提示され、発端である「1月から定時社員総会まで評議員でないが理事である」という矛盾した立場の理事が生じるのを解消できるとなり承認された。

11. 支部規約（案）について（米山彰子 担当理事）

現在の日本臨床検査医学会支部規約雛形の見直しを行い、修正すべき部分があったため新たな雛形が提示された。各支部で、約1年の期間で、この雛形により支部規約の見直しをすることが提案され承認された。7支部の支部規約が揃った時点で会則改定委員会において確認する予定である。

12. 臨床検査管理医制度規定の一部改定について（村田 満 理事長）

臨床検査管理医制度の認定試験内規の試験回数、試験方法、合否判定が実情と合っていないため改定することが提案され、試験回数は年2回を1回に、試験方法は口答試験を削除し、多肢選択問題と記述式問題とし、合否判定は筆記試験と口答試験の合算での採点を削除し審議会が判定を行うとする提案があり承認された。

13. 日本専門医機構からの貸付依頼について（村田 満 理事長、諏訪部章 会計理事）

日本専門医機構では、現在、約1億未払い金があるため、2016年度に事業開始し起動にのるまで資金不足となるため、日本政策投資銀行からの借り入れと、基本領域の学会からの借り入れを検討しているとして貸付に関する意向調査があった。当会としては、社員総会での承認が得られれば貸付可能と回答した。そのうえで、貸付は可能か、どの程度の額なら可能かが検討され、200万円程度ではないかとなり、もし、日本専門医機構からの貸付依頼があった場合には、社員総会で審議することとなった。

14. HP改修のための業者決定について（村田 満 理事長）

広報委員会よりHP改修のため、3社からの見積りが提示され、委員会での推薦もある大成に依頼することが承認された。

15. その他

1) 学会賞・功労賞に関する規定の改定について（村田 満 理事長）

近年学会賞への応募が少ないことから、次年度より学会賞へは評議員からの推薦（現行）だけでなく、自薦・他薦（本学会評議員以外からの推薦も含む）を可とする改定案が提示され、承認された。

2) 理事会、定時社員総会日程について（米山彰子 庶務担当）

次回、次年度の理事会、社員総会の予定が報告された。

2015年度第4回理事会：2015年12月26日（土）正午～（予定）

2016年度第1回理事会：2016年3月27日（日）


2015年度に係わる定時社員総会： 〃

Ⅲ 閉会の挨拶（副理事長）（前川真人 副理事長）

前川真人副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

議事録署名人

野島孝之 

清島 満 